

建築設備設計計算書作成の手引 平成30年版 講習資料(機械設備)正誤表
第1版正誤表

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
2		建築設備設計計算書の手引 (平成27年版・平成30年版 目次比較表)		2行目	H30年版 計算例(改定案)	H30年版 計算例
6	空調調和 設備	空調熱負荷計算 屋内・屋外温湿度条件、建物 方位、太陽位置図	様式 機-001	設計基準引用部分:表2- 1(a)設計用屋内条件アン ダーライン箇所の訂正	冬期 乾球温度 19~22 湿球温度 11.7~13.9 露点温度 5.1~7.8 相対湿度 40 比エンタルピー 32.9~38.9 相対湿度 0.0054~0.0066	冬期 乾球温度 19~22 湿球温度 11.7~13.9 露点温度 5.1~7.8 相対湿度 40 比エンタルピー 32.9~38.9 相対湿度 0.0054~0.0066
6	空調調和 設備	空調熱負荷計算 屋内・屋外温湿度条件、建物 方位、太陽位置図	様式 機-001	下から3行目	「屋外条件」は設計基準表10-2によ り、..	「屋外条件」は設計基準表2-10によ り、..
7	空調調和 設備	空調熱負荷計算 屋内・屋外温湿度条件、建物 方位、太陽位置図	様式 機-001	下から6行目 下から2行目	...とのなす各 $\alpha:-5^{\circ}\text{C}$のなす各 α は、..	...とのなす角 $\alpha:-5^{\circ}$のなす角 α は、..
26	空調調和 設備	冷熱源機器の算定 冷熱源機器 冷温水機 RH-1	様式 機-012	上から6行目	設計基準表3-8(b)から.....	設計基準表3-9(b)から.....
26	空調調和 設備	冷熱源機器の算定 冷熱源機器 冷温水機 RH-1	様式 機-012	設計基準引用部分:表3- 8(b)から表3-9(b)へ差し替 え (別紙-1:参照)	設計基準P384 表3-8(b)高効率吸収冷温水機の諸元 (二重効用)(2) 型番(RH-) 150 冷凍能力 527 加熱能力 372 燃焼量 ガスだき 35.2	設計基準P386 表3-9(b)高効率吸収冷温水機の諸元 (二重効用)(2) 型番(RH-) 150 冷凍能力 527 加熱能力 372 燃焼量 ガスだき 38.3
29	空調調和 設備	温熱源機器の算定 温熱源機器 鋳鉄製ボイラー BS-1	様式 機-015	上から3、4行目	空調調和・換気設備 冷熱源機器の算 定 冷熱源機器 鋳鉄製ボイラー BS-1	空調調和・換気設備 温熱源機器の算 定 温熱源機器 鋳鉄製ボイラー BS-1
29	空調調和 設備	温熱源機器の算定 温熱源機器 鋳鉄製ボイラー BS-1	様式 機-015	設計基準引用部分:表5- 1(a) アンダーライン箇所の訂正	油バーナー Hi-Lo-OFF	ガスバーナー Hi-Lo-OFF
31	空調調和 設備	温熱源機器の算定 熱源付属機器(2)	様式 機-016-2	上から9行目	...、余裕係数(k_{12})1.1~1.2、...	...、余裕係数(k_{12})1.1~1.2、...
33	空調調和 設備	煙突・換気の算定 煙突・煙道(排ガス量)の算 定BS-1	様式 機-017-1	上から3、4行目	空調調和・活気設備 煙突・煙道の算定 煙突・煙道(排ガス量)の算定 RH-1	空調調和・換気設備 煙突・煙道の算定 煙突・煙道(排ガス量)の算定 BS-1
34	空調調和 設備	煙突・換気の算定 煙突・煙道(排ガス量)の算 定BS-1	様式 機-017-1	上から2行目	煙突・煙道(排ガス量)の算定 RH-1	煙突・煙道(排ガス量)の算定 BS-1
35	空調調和 設備	煙突・換気の算定 煙突・煙道(排ガス量)の算 定BS-1	様式 機-017-2	上から13行目	..、煙道内及び煙道内排..	..、煙突内及び煙道内排..
40	空調調和 設備	空調調和機の算定 機器能力・機器選定 ユニッ ト形空調調和機 ACU-2	様式 機-022-2	上から4行目	...、様式 機-001(P.189)の...	...、様式 機-022-1(P.222)の...
42	空調調和 設備	空調調和機の算定 機器能力・機器選定 ユニッ ト形空調調和機 ACU-2	様式 機-022-3	設計基準引用部分:図8-9 冷却 選定線の訂正	WB21.8から冷水温度8°Cで補正值1.12	WB21.8から冷水温度7°Cで補正值0.97
43	空調調和 設備	空調調和機の算定 機器能力・機器選定 ユニッ ト形空調調和機 ACU-2	様式 機-022-3	上から3行目・4行目	..送風機全圧より静圧を計算し、 設計基準表5-2選定から...	..送風機全圧より静圧を計算し、 設計基準表8-2選定から...
47	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) ダブルコイル空調調和機 ACU-2	様式 機-023-2	上から7行目	...④潜熱(外気負荷用)コイル出口コ イル出口...	...④潜熱(外気負荷用)コイル出口...
49	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) ダブルコイル空調調和機 ACU-2	様式 機-023-2	上から14行目 上から16行目 上から18行目	・暖房「顕熱(室内負荷用)コイル冷却負 荷」は、.. ・暖房「潜熱(外気負荷用)コイル冷却負 荷」は、.. ...暖房「加湿量」は、①と③の絶対湿度 差...	・暖房「顕熱(室内負荷用)コイル加熱負 荷」は、.. ・暖房「潜熱(外気負荷用)コイル加熱負 荷」は、.. ...暖房「加湿量」は、①と②の絶対湿度 差...
51	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) 潜熱・顕熱分離方式(ダブル コイル空調調和機) ACU-2	様式 機-023-3	下から4行目	..、様式 機-023-1(P.231)	..、様式 機-023-2(P.232)
52	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) 潜熱・顕熱分離方式デシカ ント空調調和機	様式 機-024-1	上から11行目	..「再生コイル加熱能力」が以上を..	..「再生コイル加熱能力」以上を..
54	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) 潜熱・顕熱分離方式デシカ ント空調調和機	様式 機-024-1	上から11行目	・「加湿出口」は、④から...	・⑥「加湿出口」は、④から...
56	空調調和 設備	空調調和機の算定(湿り空気 線図) 潜熱・顕熱分離方式デシカ ント空調調和機	様式 機-024-2	上から4行目	・「冷水コイル(予冷・余熱)」の..	・「冷水コイル(予冷・予冷熱)」の..

66	空気調和設備	マルチパッケージ形空調和機 屋内機 ACP-例-2-1 交換室	様式 機-029-1	設計基準引用部分:表10-4(a) アンダーライン箇所訂正	型番(ACP-) 2.2 定格冷房能力 2.2 定格暖房能力 2.2 カセット方(1方向) ○ カセット方(2方向) ●	型番(ACP-) 2.2 定格冷房能力 2.2 定格暖房能力 2.2 カセット方(1方向) ○ カセット方(2方向) ●
76	空気調和設備	氷蓄熱システムの算定方法 現場施工形氷蓄熱システム BHP-1	様式 機-033	上から11行目	・・乗じて値に・・	・・乗じた値に・・
85	空気調和設備	送風機の算定方法 送風機	様式 機-051	上から11行目	・「動圧」は、・・	・「静圧」は、・・
92	空気調和設備	ダクトの算定 ダクト抵抗計算 ACU-2 天井吹出	様式 機-054	設計基準引用部分:図2-1 鉄板ダクト摩擦抵抗線図選 定線の訂正(別紙-2:参 照)	風量9020m ³ /で摩擦抵抗1.0Pa/m	風量9020m ³ /で摩擦抵抗1.2Pa/m
96	空気調和設備	室内防音計算 室内防音計算 2階 ACU-2 系統 所長室	様式 機-055	上から7行目	機-054(P.000)より記入する。	機-054(P.282)及びACU-2ダクト系統図 (P.281)より記入する。
111	給水設備	給水引込管の管径決定 高置タンク方式 ステンレス 管	様式 機-102	設計基準引用部分:図7-6 全体集計値→の位置の訂 正 (別紙-3:参照)	→の位置:75Su	→の位置:50Su
119	給水設備	給水配管の算定(等摩擦抵抗 法) 高置タンク方式 上水 塩化 ビニルライニング鋼管(VA)	様式 機-106-3	下から12行目	・・、高置タンク以降の給水立て主管系統 図(P.000)より、・・・	・・、高置タンク以降の給水立て主管系統 図(P.311)より、・・・
119	給水設備	給水配管の算定(等摩擦抵抗 法) 高置タンク方式 上水 塩化 ビニルライニング鋼管(VA)	様式 機-106-3	下から5行目	・・、様式 機-103(P.000)上水と同様 の・・・	・・、様式 機-106-3(P.318)上水と同様 の・・・
122	給水設備	給水引込管の算定 ポンプ直送方式(屋外埋 設) ステンレス管	様式 機-102	上から4行目	・・、様式 機-102(P.000)同様の・・・	・・、様式 機-102(P.307)同様の・・・
124	給水設備	給水配管の算定(等摩擦抵抗 法)ポンプ直送方式 上水 塩化ビニルライニング鋼管 (VA)	様式 機-106-3	下から7、8行目	・「配管許容摩擦抵抗」が「推奨摩擦抵抗」 以上となることを確認し、「管径」を決 定する。	・B'以降の配管は、「ポンプ流量」と「推 奨流速」の交点を通る「等摩擦抵抗線」 で管径を決定する。
128	給湯設備	瞬間式湯沸器の算定	様式 機-111	上から14行目	・設計基準図2-2より、	・設計基準図2-1より、
130	給湯設備	貯湯タンク 洗面・湯沸室用として利用す る場合	様式 機-113-1	下から5行目	・・より10.0L/d)の設定とした。	・・より10.0L/d)の設定とした。
131	給湯設備	貯湯タンク 厨房用として利用する場合	様式 機-113-2	下から6、7行目	・・より100L/(d/人)より10.0L/d)の設定 とした。	・・より使用実態を踏まえ適宜設定する。
132	給湯設備	貯湯タンク 浴場用として利用する場合	様式 機-113-3	上から1行目	(様式 機-113-3)P.344	(様式 機-113-3)P.346

表 3-9(b) 吸収冷凍水機の種類 (二重效用) ②

形 式 (RIL-)	120	150	180	310	390	450	500
冷凍能力 [kW]	423	537	633	733	1,033	1,407	1,733
冷凍水流量 [L/min]	1,210	1,511	1,814	2,117	3,034	4,033	5,040
冷却水流量 [L/min]	1,990	2,490	3,000	3,537	4,900	6,533	8,167
電 源 容 量 [kVA]	7.8	11.4	12.1	12.3	17.4	26.8	33.9
冷凍時入力 [kW]	346	433	513	576	833	1,153	1,541
加熱能力 [kW]	318	397	476	529	753	1,050	1,333
加熱時入力 [kW]	346	433	513	576	833	1,153	1,541
制 御 方 式		比 例					
燃 料 量	ガス (L/h)	30.7	38.3	45.9	51.1	75.7	102.3
	灯油 [L/h]	35.3	44.7	53.5	59.6	88.5	119.1
冷凍水損失水量 [L/h]		70	107	93	93	133	117
冷却水損失水量 [L/h]		97	131	97	99	116	101
必要保水量 [L]		3,700	3,300	3,950	4,400	6,300	8,700
運 転 質 量 [kg]		8,000	8,000	8,200	10,700	13,400	16,300
標準の接続口径 [mm×mm]		475×323	475×323	475×323	475×323	593×323	741×741

備考 (1) 冷凍時入力、加熱時入力は、必要熱量を基準とし、下記による。

13A ガス 40.8 MJ/m³N

灯油 34.8 MJ/L

(2) 冷水出入口温度は 7℃、13℃とする。

(3) 温水出入口温度は、53℃とする。

(4) 冷却水出入口温度は、37.5℃(参考値)、33.0℃とする。

(5) 電源容量は「以下」表示とする。

(6) 機体量は、冷凍時・加熱時の値とする。

(7) 加熱能力は、標準仕様値である。加熱能力の増強が必要な場合は、加熱時入力及び機体量が加熱能力に比例して増える。

(8) 電源は三相 200 V とする。

(9) 電源容量はガスときの場合の値とする。灯油の場合は、燃料種類により電源容量が増える。

(10) JIS 条件による冷房時の成績係数 (COP) = 1.20 とする。

(11) 標準の接続口径は参考とする。

P.92 図の差し替え

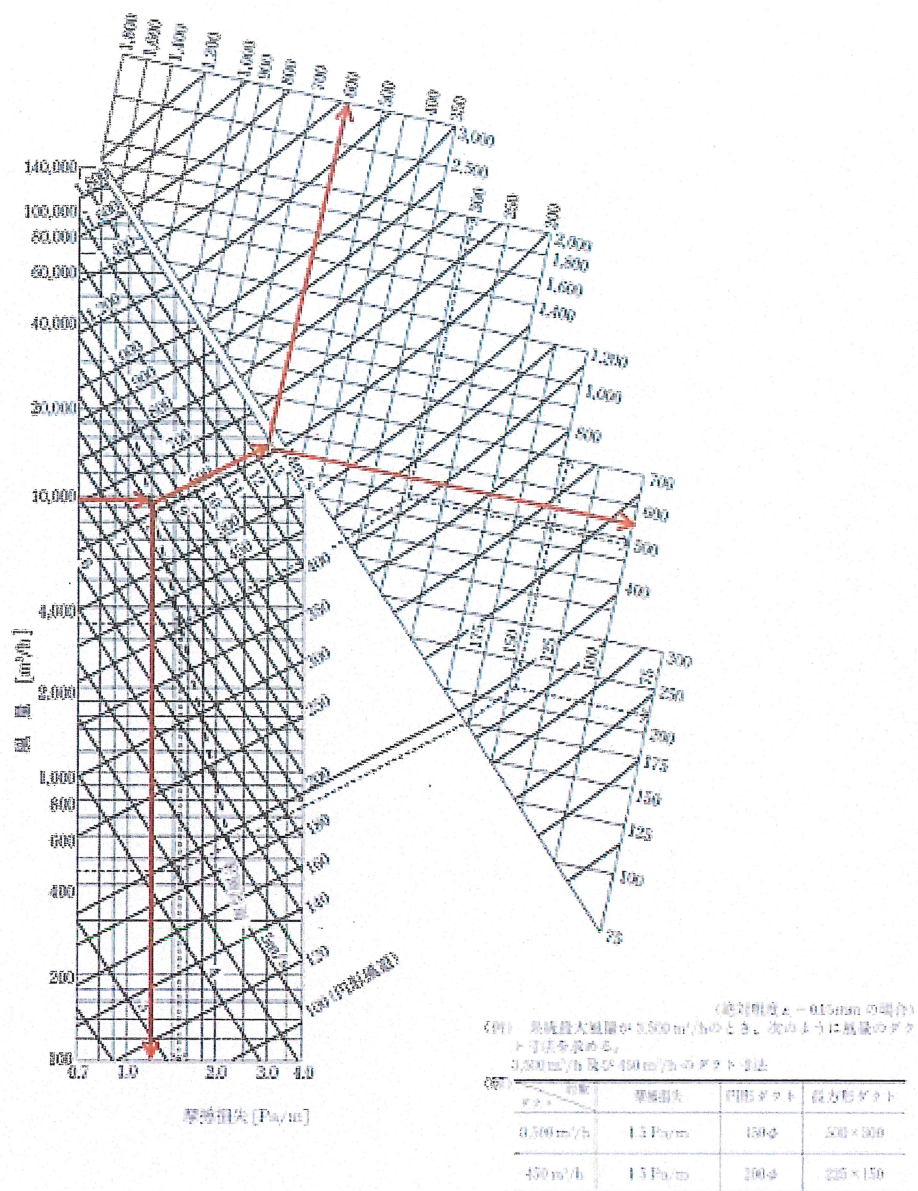
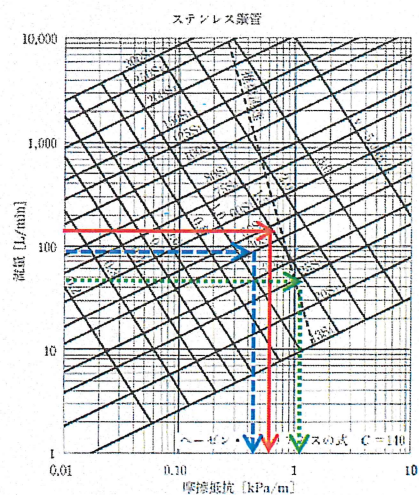


図 2-1 鋼板ダクト摩擦損失線図

P.111 図の差し替え



備考 この図は、消火設備の配管には適用しない。

図 7-6 配管摩擦抵抗線図